

平成 29 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

本校は南河内地区唯一の夜間定時制高校である。働きながら学ぶ生徒をはじめ、多様な事情・目標を持って入学してくる生徒一人ひとりに対して、生徒の興味・関心に応じた特色ある教育活動を展開し、生徒に基礎・基本の学力を定着させるとともに、自尊感情と自己有用感を高め、志と生活力のある社会人を育成する。また、地域との連携を深め、地域から信頼され必要とされる学校づくりを充実させる。

2 中期的目標

1 確かな学力の育成

(1) 生徒の基礎学力を向上させる。

ア 生徒の学習意欲を高め「わかる授業」を実現するため、全教科・科目において、ICT 機器活用や授業内容・方法の改善を進める。

イ 生徒の基礎学力の定着をめざした授業方法の開発・実践を行う。

ウ 教員の更なる授業力向上のための外部講師を含めた校内研修を行う。

(2) 生徒の興味・関心、進路希望等に応じた特色ある教育課程の充実を図る。

ア 生徒の実態に合った基礎的・基本的な学力の定着をめざした教育課程の充実を図る。

イ 特別非常勤講師等の外部講師を積極的に活用し、高度な技能・技術など本物に触れる教育を実施する。

※生徒向け学校教育自己診断における「わかりやすい授業が多い」の肯定的回答(平成 28 年度 60.8%)を平成 31 年度には 75%以上に引き上げる。

2 生徒の規律・規範の確立と豊かな心をはぐくむ

(1) 志や夢を育み豊かな人間性を涵養する。

ア 「農園実習」やボランティア活動を通して、豊かな人間性、自尊感情や自己有用感を育む。

イ 「寄り添う教育」を基幹としながらも、校則の遵守や学習規律の向上など生徒の規範意識の醸成に取り組む。

ウ 生徒の規範意識の向上と地域貢献のため、学校周辺の清掃活動「クリーンキャンペーン」を実施する。

(2) キャリア教育の充実、資格取得の充実を図る。

ア 入学時から教育活動全体を通じて進路指導を行い、正規雇用をめざした就職支援体制を整える。

イ 実践的な職業教育を通じて社会人としての資質や能力を高めるとともに、進路につながる資格取得のための支援を充実させる。

※進学希望者の進学率 100%を平成 31 年度まで維持し、就職希望者の内定率(平成 28 年度 80%)を段階的に引き上げ、平成 31 年度には学校斡旋就職希望者の内定率 90%をめざす。

(3) 中途退学・不登校の減少に取り組む。

ア 中高連携・人間関係や居場所づくり・基礎学力養成講座など、中途退学・不登校を減少させるための取り組みを行う。

イ 「様々な課題を抱える生徒の高校生活支援事業」を活用し、生徒支援(中退防止)コーディネーターを中心としたプロジェクトチームによる、様々な課題を抱える生徒への支援体制づくりや教育相談を充実させ、生徒が安心して学校に通える環境づくりを行う。

※生徒向け学校教育自己診断における学校に対する満足度(面倒見のよさ など)を引き上げ、平成 31 年度には肯定的回答を 70%以上にする。

※教育相談体制をさらに充実させ、生徒向け学校教育自己診断における担任以外に相談することができる先生がいる(平成 28 年度 46.8%)を平成 31 年度には 60%に引き上げる。

3 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり

(1) 生徒たちの安心と安全のための取り組みの充実を図る。

ア 校内の教育相談体制を充実させ、生徒が気軽に相談できる雰囲気作りに努める。

イ 通学時の安全確保のため、自動車・バイク・自転車通学生徒に対して交通安全指導を行う。

ウ 覚せい剤・大麻等の薬物乱用防止教育を学校全体の教育活動全体を通じて取り組む。

(2) 家庭・地域との連携を密にし、地域から信頼され必要とされる学校づくりを進める。

ア 長期欠席等の生徒の状況を家庭に連絡し、保護者への協力を得るなど家庭と連携した生徒の出席状況の改善を行う。

イ 在籍生徒の出身中学校を訪問し、情報交換等を行い、中学校との連携を深め生徒理解や生徒支援の充実を図る。

ウ 近隣幼稚園等の園児、地域の方を農園の作物収穫へ招待し、地域との連携を深める。また、「公開講座」等本校の施設設備を活用した地域交流の取り組みを通じて、地域に開いた学校づくりを進める。

エ 転編入生を受け入れ、卒業まで導くサポートを行い、地域の「学び」のセーフティネットとしての定時制の役割を果たす。

オ 生徒が安心して学校生活を送れるための合理的な配慮を推進し、「ともに学び、ともに育つ」学校づくりをめざす。

※保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度(面倒見のよさ など)を、平成 31 年度まで 80%以上で維持する。

4 学校運営の活性化と教職員の資質向上

(1) 学校運営の活性化を図る。

ア 准校長のリーダーシップのもとPDCAサイクルによる学校経営を推進する。

イ 分掌や委員会等の活性化を図り、生徒の状況や配慮事項等の情報共有を行い、速やかに課題解決を進める。

ウ 学校自己診断など教育活動その他の学校経営の状況を、学校協議会等で公表し学校運営に資する。

(2) 教職員の資質向上を図る。

ア 日常的なOJTの推進、校内研修の活性化を行う。

イ ミドルリーダーの育成、教職経験の少ない教職員の資質向上を図り、次世代の校内運営を担う人材の育成を行う。

※平成 31 年度まで校内研修、報告会を年間5回以上実施を継続し、人材の育成や情報の共有などを図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 29 年 11 月実施分]	学校協議会からの意見
生徒・保護者・教員について、昨年度との変化をみるために、同じ質問項目で実施した。提出率は、生徒 56.6%→74.8%、保護者 58.3%→64.3%、教員 97.0%→96.7%であった。担任からの提出要請が提出率 up になった。	第 1 回 (7/12) ○今年度の取り組み紹介 ・外部講師の活用、平成 28 年度資格取得状況、農園を活用した取り組み、生徒支援チーム

府立藤井寺工科高等学校 定時制

生徒については、全 12 項目中、肯定的回答の割合が増えたものは 10 項目と改善が見られた。教員がカウンセリングマインドをもって、生徒に寄り添い指導を行った結果である。

保護者については、全 14 項目中、肯定的回答の割合が増えたものは 2 項目であった。保護者との連携が功奏した。

教員については、全 54 項目中、肯定的回答の割合が 10% 以上増えたものが 11 項目。5～10%増えたものは、26 項目あった。今年度は肯定的回答の割合が 10% 以上減少したものは 1 項目あったが、全体的には改善がみられたと考えている。

【学習指導等】

生徒「わかりやすい授業が多い」(60.7%→63.8%)、保護者「子どもは、授業がわかりやすく楽しいと言っている」(58.9%→50.5%)、教員「教材の精選・工夫を行っている」(87.5%→93.1%)「指導方法や学習形態の工夫・改善を行っている。」(84.4%→93.1%)であった。教員が日々、授業内容を工夫改善しながら実践し、その効果が徐々に生徒や保護者の診断結果にも表れてきていると言える。

【生徒指導等】

・生徒「学校に行くのが楽しい」(61.3%→63.1%)、「先生は生徒のことを、よく見て対応してくれる」(68.3%→70.6%)、「学校生活について、先生の指導には納得できる」(69.3%→66.9%)、保護者「学校の生徒指導の方針に共感できる」(85.8%→76.5%)、「学校は生活指導の面で、家庭への連絡や意志疎通を積極的に、きめ細かく行っている」(85.1%→79.0%)教員「生徒指導において、家庭との連携ができています」(87.5%→93.1%)。若干評価がダウンした項目もあるが、平日頃より教員が生徒個々に丁寧に指導を行っていることが、生徒や保護者の理解と信頼を示す結果になっていると考える。

・生徒「人権の大切さについて学ぶ機会は多い」(53.7%→56.3%)、「社会人になったときに必要になってくることについて学ぶ機会が多い」(55.9%→65.7%)、保護者「学校は、生徒に生き方を考えさせ、豊かな心を持った生徒を育てようとしている」(84.3%→83.2%)、「学校は子どもに生命を大切に心や社会ルールを守る態度を育てようとしている」(83.6%→84.9%)、「学校は生徒に人権を尊重する意識を育てようとしている」(88.1%→80.7%)など、評価は若干ダウンしている項目もあるが、教科以外の教育活動の内容についても好結果が得られている。

【学校運営】

・教員「学校運営に准校長がリーダーシップを発揮している」(96.9%→89.7%)、「准校長は日頃から、教育方針や学校運営方針を教職員に話している」(93.8%→89.7%)、「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」(75.0%→79.3%)等があるが、学校組織に関する質問項目 16 項目のうち、8 項目で”よくあてはまる”肯定的な意見のアップがみられた。

・「研修に参加した成果を他の教員に伝える機会が設けられている」(50.0%→44.8%)、「学校内で他の教員の授業を見学する機会がよくある」(31.2%→51.7%)など増減はあるが、ダウンした項目について早急に改善できるよう対応が必要であると思われる。

の取り組み、不登校生徒への支援モデル授業、基礎学力の養成講座、生活指導部の取り組み、クリーンキャンペーン、クラブ活動、支援学校との交流及び共同学習、地域連携による相互交流、公開講座について説明した。

・協議委員から、学校の取り組みが豊富で喜ばしいという意見があった。

また、クリーンキャンペーンについて、地域住民が高齢化しており、生徒が手伝っていているので大変助かるという意見があった。

・協議委員から、クラブ活動をしている生徒の生活サイクルがどのようになっているのか、質問が出された。仕事やアルバイトをしている生徒ほど、クラブ活動に熱心に取り組んでいる傾向が見られ、生活リズムも安定している。

・協議委員から、就職の現状として現場ではどのような様子であるか質問があった。

全日制高校の出身生徒にも劣らない定着率があり、職場では意欲的に技術を習得し、技術的にも安定してきている卒業生が多い。

・様々な取り組みを行い、十分取り組んでいる。学校の雰囲気も落ち着いている。

第 2 回 (12/8)

○今年度の取り組みの進捗状況報告

・農園を活用した取り組みで、いちご狩りは 7 団体 296 名、芋掘りは 4 団体 235 名の方が参加する等、農園を地域連携に活用できている。

・PTA行事について、主要なものが 4/5 終了。PTAから 19 名の参加者があった。

・支援学校との交流及び共同学習では「ともに学び、ともに育つ」ことの大切さを学ぶ機会をもとに食堂体験実習、陶芸実習、芋掘り体験等、実施した報告を行った。

・不登校生徒への支援モデル事業では、講師を招き教員向けに、不登校対応研修を行った。

・公開講座では、今年度 45 名の参加希望者があり、陶芸、バーナーワーク、パソコンの 3 講座が行われた。

○授業アンケート結果について

・第 1 回目を 6 月、第 2 回目を 11 月に実施し、昨年度との比較検討を行った結果、多くの項目においてもポイントが上がっているところを報告した。

・居場所があり、仲間がいて、楽しいという環境の中で様々な可能性を見つけ出せている。

・南河内地区で「働きながら学ぶ」ことができる最後の砦として存続し続けてほしい。

・学校が楽しいのではなく、社会に出た時、困難や課題を解決する楽しさを発見させてほしい。

・目標や目的をもって厳しい環境下でも自立できる力をつけるようアドバイスしてやってほしい。

第 3 回 (2/13)

○平成 29 年度 学校評価 及び 平成 30 年度 学校経営計画 (案) について

・教育方法は時代と共に方法が移り変わり、これまでの常識が通用しない。

・英語と日本語はボキャブラリーがとても豊富で論理的思考が育つ。英語と双璧をなす表現法がある日本語を操る日本人は英語の表現力に魅力を感じないため関心が薄い。

・日本の英語教育は形式に捕らわれすぎている。伝達が最低限できればそれでよい。

・進学、就職率を引き上げることが、学校としての目的なのではないのか

・奈良県王寺工業高校のように、挨拶の励行指導ができれば理想である。

○校則 (生徒心得) の見直しについて

・学校協議会へ生徒を参加させて、大人と意見交換させてみるのも意義あることだ。

○授業アンケート (2 回目) の結果について

・過去 3・4 年分のデータと照らし合わせての比較を行いたい。

・生徒が自己表現、積極的な発言をする場を設けるのは良い事だが、そればかりに捕らわれてしまっは基礎学力が成り立たなくなってしまう。

・家族とのコミュニケーションを取らなくなっている子供が多いため、教員と保護者との教育への思いに差が出てくるのではないかと。

○学校運営協議会の設置について

・現在の協議会とあまり相違はないですね。どの学校でも行っているのか。

・発足時と、機能的な差は感じられない。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1)生徒の基礎的学力を向上させる (2)生徒の興味・関心、進路希望等に応じた特色ある教育課程の充実を図る。	(1) ア 生徒の学習意欲を高め「わかる授業」を実現するため、全教科・科目において、ICT機器活用や授業内容・方法の改善を進める。 イ 生徒の基礎的・基本的な学力の定着をめざした授業改善の一環として学び直しを目的とした、反復練習を主としたモジュール授業(理数、国、英)を1年生中心に継続・拡大する。 ウ 外部講師の活用も含めた教員の「授業力向上」校内研修を行う。 (2) ア 特別非常勤講師や高度熟練技能者等の外部講師を積極的に活用し、生徒の興味・関心が深まる授業づくりや資格取得指導、進路講話など生徒のキャリア意識が高まる本物に触れる教育を実施する。	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における「わかりやすい授業が多い」を65%以上にする。(28年度60.8%) イ 年度最初の診断テスト結果より1月実施の診断テストでの正答率3%アップを達成する。(28年度56%) ウ 年間2回以上の校内研修の実施。 (2) ア 外部講師の実践による指導を活用し、前年より10h増の授業に関わってもらう。(28年度300h)	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における「わかりやすい授業が多い」は63.8%(△) イ 診断テスト結果の正答率19%アップを達成(◎) ウ 「授業力向上」校内研修を2回実施した(○) (2) ア 外部講師の実践による指導時数383hであった(◎)
2 生徒の規律・規範の確立と豊かな心のはぐくみ	(1)志や夢を育み豊かな人間性を涵養する。 (2)キャリア教育の充実・資格取得の充実を図る。 (3)中途退学・不登校の減少に取り組む。	(1) ア 「農園実習」やボランティア活動を通して、豊かな人間性、自尊心や自己有用感を育む。 イ 校則遵守、学習規律など生徒の規範意識の向上を図るとともに、規範意識の醸成を育むための地域貢献として学校周辺の清掃活動「クリーンキャンペーン」を実施する。 ウ 校種間連携を通じ支援学校等との共同学習を実施する。 (2) ア 職場体験や学校見学など、生徒の進路実現の支援を充実させる。 イ 進路につながる資格取得の推進を通じてキャリア教育の充実を図る。 生徒の進路が実現できるように資格取得のための支援を充実させる。 (3) ア 中高連携・人間関係・居場所づくり・基礎学力講座等を通じ、中途退学・不登校の減少させるための充実に重点をおき、家庭はもちろん生徒の雇用主とも連携を深め、授業への出席率を向上させることで中途退学の減少に取り組む。 イ 「様々な課題を抱える生徒の高校生活支援事業」を活用し、生徒支援(中退防止)コーディネーターを中心としたプロジェクトチームによる、様々な課題を抱える生徒への支援体制づくりや教育相談を充実させ、生徒が安心して学校に通える環境づくりを行う。	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における学校に対する満足度70%にする。(28年度66.3%) ボランティア参加者数50人以上を維持する。 イ 平成29年度も、「クリーンキャンペーン」を年間4回実施継続する。(28年度4回) ウ 平成29年度も、年2回の支援学校との共同学習を継続実施。(28年度2回) (2) ア 平成29年度も、進学希望者の進学率(28年度89%)を維持、就職希望者の内定率(28年度80%)の維持。 イ 平成29年度も、資格取得数を、年間延べトータル数100以上を維持する。(28年度123) (3) ア 中途退学率を、前年度比2%減少させる。(28年度13.1%)(3/31現在) イ 平成29年度も、SSWやSCも含めた、ケース会議やコア会議を10回以上実施する。	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断における学校に対する満足度66.9%。ボランティア参加者数は73名(○) イ 「クリーンキャンペーン」を年間4回実施(○) ウ 支援学校との共同学習を年2回実施(○) (2) ア 進学率57%、就職内定率48%(△) イ 資格取得延べ人数72名(△) (3) ア 中途退学率は9.6%(1月末現在)(○) イ ケース会議2回、コア会議33回(◎)
3 学校・家庭・地域の連携と安全で安心な学校づくり	(1)生徒たちの安心と安全のための取り組みの充実を図る。 (2)学校・家庭・地域の連携を密にし、地域から信頼され必要とされる学校づくりを進める。	(1) ア 多様な生徒・保護者の相談や、相談需要数の増加をうけて、より一層、教育相談体制の充実を図りスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用を図る。 イ 通学時の安全確保のため、自動車・バイク・自転車通学生徒に対して交通安全指導を行う。 ウ 薬物乱用防止教育の充実を図る。 (2) ア 保護者懇談会の充実や学年通信等を発行する等、家庭との連絡を頻繁に行い、家庭との連携を深める。 イ 在籍生徒の出身中学校を訪問し、情報交換等を行い、生徒理解や生徒支援のための中学校との連携を深めるとともに、本校の教育活動の広報を行う。 ウ 近隣の幼稚園等の園児、地域の人々を農園の作物収穫へ招待し、地域との連携を継続し本校の教育活動への協力と理解を深める。 エ 地域の方対象の公開講座の開催を継続する。 オ 生徒が安心して学校生活を送れるよう、合理的配慮を推進するための研修会を実施する。	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断「担任以外に相談することができる先生がいる。」を50%に引き上げる。(28年度47%) イ 平成29年度も、交通安全教室を年間3回開催。(28年度は3回) ウ 薬物乱用防止教室を年間2回以上開催する。(28年度は1回) (2) ア 保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度80%以上を維持する。(28年度81%) イ 生徒出身中学校全校訪問を維持(25校以上)する。 ウ 年間に10団体程度を農園に招待する。(28年度延べ14団体) エ 公開講座を年間5回程度実施する。(28年度5回) オ 合理的配慮に関する研修会を2回行う。(28年度2回)	(1) ア 生徒向け学校教育自己診断「担任以外に相談することができる先生がいる。」は55%(○) イ 交通安全教室を3回開催(○) ウ 薬物乱用防止教室は1回開催(△) (2) ア 保護者向け学校教育自己診断における学校に対する満足度77%(△) イ 中学校訪問は29校(◎) ウ 農園に11団体を招待(○) エ 公開講座を6回実施(○) オ 合理的配慮に関する研修会を2回実施(○)

府立藤井寺工科高等学校 定時制

4 学校運営の活性化と教職員の資質向上	<p>(1) 学校組織運営の活性化を図る。</p> <p>(2) 教職員の資質向上を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 分掌会議・系列会議・教科担当者会議・いじめ対策委員会等を適宜開催し、生徒の状況や配慮事項等の情報を話し合い、情報共有化を図る。</p> <p>イ 学校自己診断など教育活動その他の学校経営の状況を学校協議会等で公表し学校運営に資する。</p> <p>(2)</p> <p>ア 日常的なOJTの推進、校内研修の活性化を行う。</p> <p>イ ミドルリーダーの育成、教職経験の少ない資質向上を図り、次世代の校内運営を担う人材の育成を行う。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 教員向け学校教育自己診断「本校の教育活動について、教員間で日常的に話し合っている(28年度 78.1%)を80%に引き上げる。</p> <p>イ 教育活動全般にわたる点検評価を行い、教員向け学校教育自己診断「次年度の計画に生かしている(28年度 65.6%)」を70%に引き上げる。</p> <p>(2)</p> <p>ア 各種校内研修を7回以上実施する。(28年度7回)</p> <p>イ 外部研修会への推薦、参加者による校内研修報告会5回を実施する。(28年度5回)</p>	<p>(1)</p> <p>ア 教員向け学校教育自己診断「本校の教育活動について、教員間で日常的に話し合っている」82.7%(○)</p> <p>イ 教育活動全般にわたる点検評価を行い、教員向け学校教育自己診断「次年度の計画に生かしている」86.2%(◎)</p> <p>(2)</p> <p>ア 各種校内研修7回(○)</p> <p>イ 外部研修会参加者による校内研修報告会3回実施(△)</p>
---------------------	---	---	---	---